

刊行にあたって

編集委員長

玉野 和志

せたがや自治政策研究所の活動の一環として、2008年度より刊行しております学術機関誌『都市社会研究』もおかげさまで第12号を刊行することとなりました。特集に寄稿していただいた先生方をはじめとして、論文、研究ノート、活動報告に投稿いただいた皆様のお陰によるものと存じます。また、編集にご協力いただいた編集委員会の委員や査読を担当された方々、編集委員会をサポートしていただいている事務局にも、心より厚く御礼申し上げます。

本誌刊行の目的は、一つには学術研究の発表・発信、またそれを基礎とする政策形成の基盤づくりにあります。いま一つの目的は、実践的な内容を持ち、公共の利益に資するような研究の発表・発信の場とすることにあります。従来の学術研究誌にはみられない実践的かつ公共的な性格を併せ持つ、地域発の学術機関誌をめざして発刊したものです。

本号の特集テーマは「住宅都市のデザインと環境」としています。世田谷区は90万人を超える居住者が暮らしている自治体であり、土地利用に占める住宅の割合が高く、まさに住宅の都市と呼べる特徴をもっています。住宅地としての世田谷の歴史は、大正・昭和初期の鉄道の開通や関東大震災後の復興に伴う人口流入の時期から始まり、戦後から高度成長期にかけての人口急増と都市基盤整備の時期を経て拡大しました。その後、街づくり条例の制定（昭和57年）などきめ細かなまちづくりに取り組み、世田谷らしい「住宅都市」が形成されたと言えます。現在、世田谷区の人口は増加が続き、集合住宅などの住宅も増え続けている一方で、長期的には人口減少に転じる可能性もあります。今後、高齢化や単身世帯の増加を踏まえた持続可能な都市のあり方を考える必要があります。このような意図を込めて本号のテーマを設定しました。

研究者や専門家、自治体職員の方々はもちろんのこと、多くの世田谷区民の方々に本誌を手にとっていただきたいと願っております。さらに、都市社会を研究対象とする全国の若手研究者が投稿論文の本誌への掲載を名誉と考えるような機関誌に育っていくよう願っています。

最後に、今後とも投稿者、読者の方々をはじめ、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたしまして、第12号刊行のご挨拶とさせていただきます。